

# ふかまのまど

第三九号 二年十月二日  
発行元 深町連合町内会  
連絡先 六六三三九二一

如水館中学高等学校だより

「中学校で頑張っているよ」

僕が中学校で頑張っていることは三つあります。  
一つ目は、勉強です。毎日の自学自習では、テストに向けて良い点がとれるようにしています。宿題は忘れずに全部終わらせて、提出日に出すようにしています。



二つ目は、部活動です。僕はサッカー部に入っています。好きなことを毎日できるから楽しいです。コロナ禍の中でも制限をしながら部活動ができるので、感謝しながら組みたいです。また、たくさん練習して試合で活躍するだけだけでなく、勉強と部活動を両立させたいです。

三つ目は、あいさつです。担任の先生やサッカー部の顧問の先生に、あいさつは大切だと教えられています。すれ違う人や、登下校するときに車に乗っている人に、あいさつを忘れずにしています。これからも、中学校でこの三つのことを頑張る、学校生活を楽しくしながら新しいことを学んでいきたいです。

## 深町子どもを守る会

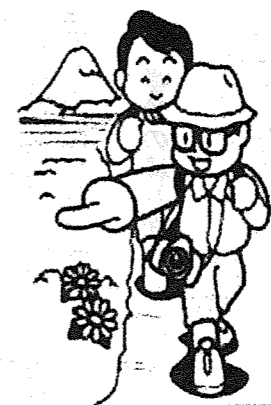
子どもをみんなで見守りましょう。



- 午後四時前に下校します。  
※下校時間は日によって異なることがあります。
- 近頃、通いで、みんなで見守りましょう。
- あいさつ  
声かけをしましょう。

## 歩く会(ト)に参加を

尾道市原田町 石井 堂照



月日 十月十二日(火)  
予備日 十四日(木)

行程  
八時三十分 深町上組公民館発(車)  
九時〇〇分 原田町小原より探訪開始  
十一時三〇分 探訪終了 昼食  
十三時〇〇分 深町上組公民館着(車)

※九月十四日(火)の歩く会は、非常事態宣言延長の為、中止となりました。  
十月十二日(火)の歩く会もコロナの状況によっては中止する場合があります。

## TBG協会より

令和三年九月三原市月例ターゲット・パードゴルフ大会



三原市TBG月例大会を、九月十九日(日)に予定していましたがコロナウイルス感染症拡大に伴い緊急事態宣言も九月末まで延期となった為、中止としました。

十月の月例大会は十月二十三日(土)に行います。  
TBG協会  
会長 船本 雄三

「ふかまのまど」ホームページのアドレスは  
<http://www.jcat.ne.jp/~fuka/top.html>

高齢者相談センター  
どりのいむだより

三原市高齢者相談センターレトリイむ  
三原市中野町6丁目3番号  
電話 614410

今年の夏も気温が高く、マスクを着けたままだと熱がこもって熱中症になりやすいです。涼しくして水分補給をし、人が居ない場合は適宜マスクを外して熱中症に気をつけましょう。

## 法テラスについて

法テラス広島法律事務所  
電話 050-3388315485

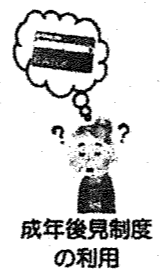
法テラス(日本司法支援センター)は国によって設立された法的トラブル解決のための総合案内所です。電話等で法的トラブル解決のための「情報提供」を無料で行っています。

## 法テラスの法律相談

お金に余裕がない人が法的トラブルにあった時に、**収入と資産が一定額以下(表1・2)であれば、**  
① 弁護士・司法書士による**無料法律相談(同じ内容で3回まで)**  
② 実際に弁護士・司法書士に依頼する場合の**費用の立て替え**を行います。なお、建て替えた費用は、毎月5000円〜1万円の分割払いになります。

## 法律相談の例

### 借金の返済



### 相続問題

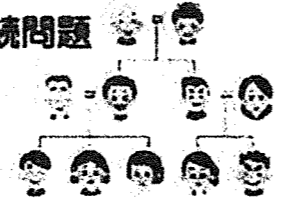


表1 収入の基準

	単身者	2人家族	3人家族	4人家族
収入(月額)	18万2000円	25万1000円	27万2000円	29万9000円
家賃・住宅ローン等を負担している場合	22万3000円	30万4000円	33万8000円	37万5000円

表2 資産の基準

	単身者	2人家族	3人家族	4人家族
	180万円	250万円	270万円	300万円

## 資料① 健口体操

マスクをしたままでもできる  
**お口の体操**

唇や舌、頬やのどの筋力アップをすることは全身の健康へとつながります。美味しく安全に食べて健康に過ごしましょう。

- 唇を舌とがらせ前に突き出す
- 2を右にしっかりと引く
- 3大きく開ける
- 唇を開じ、舌の内側で舌をぐるぐる回す

謹んでお悔やみ申し上げます  
船本 輝明様 九十五歳  
(中組 田屋講) 八月二十三日  
深町各種団体十月行事予定

- ◆連合町内会
- ▼市民体育大会 中止
- ▼小学校
- ▼修学旅行 七・八日
- ▼スクールカウンセラー一四日
- ▼児童会引継ぎ式
- ▼道徳参観日・清掃活動一五日
- ▼委員会 一八日
- ▼深の子をはぐくむ会 二二日
- ▼クラブ 二五日
- ◆如水館中学・高校
- ▼身だしなみ週間 一〜七日
- ▼学年朝会(高一) 四日
- ▼学年朝会(高二) 五日
- ▼学年朝会(高三) 六日
- ▼入試説明会(本校) 一〇日
- ▼中間テスト 一三〜一五日
- ▼校内大会 二一日
- ▼入試説明会(本校) 二四日
- ▼生徒会選挙 二七日
- ▼生徒会委員会 二八日
- ▼生徒会役員任命式 二九日

法テラスの事務所は広島市にあります。三原に住んでるとそこまで行くのは大変なので、対面で法律相談したい時には法テラスと契約している近隣の弁護士・司法書士と相談することができます。

とはいえ、病気や障害がある人や高齢者の場合、近隣の弁護士・司法書士の事務所まで行けないこともあると思います。そのような時には、法テラスの「出張相談(収入と資産が一定額以下(表1・2)であれば無料)」を利用して自宅や施設等で相談できる場合がありますので、まずは法テラスに電話で相談をしてみることが大切です。

また、法テラスでは「支援者相談ダイヤル」を利用して医療や福祉等の支援者が皆さんの代わりに電話相談することができます。お困りのことがありましたら、高齢者相談センターどりのいむまでご相談ください。

深の歴史余話より

平成二年(二〇〇〇)八月発行

深町町内会連合会  
深郷土誌編集室

文・高崎 壽郎  
絵・船本 輝明

堂さん巡り(七)

II 堂の現状と大谷浄土堂  
沖成瀬峠堂 II

峠堂は中組峠にあったが、太郎谷パイパス開通で、平成六年(一九九四)に上組沖成瀬(村上正之さん宅裏道路脇)へ移転している。本尊は観音菩薩で、石仏七体(丸彫坐像)から成り、木骨塩ビ張り雨露を凌ぐ飯の宿である。近所の二人の女性が熱身な堂守。以前の峠堂は、深から山中村(現中之町)へ通じる村境にあり、そこを行き来する人々は必ず立ち寄った。

堂の傍には、樹齢何百年と思われような老松が辺りを見下ろしていた。三原へ用事のあつた者は、その一本松のある堂にたどり着くと、やっと深へ帰ったような気がしたという。その松は昭和三十五年(一九六〇)頃倒された。

存在するものには必ず合理性がある。人間が何世代もの間、伝承し生活の必要の場として活用してきたことには、宗教的要素があるという意味以上のものがある。

近代化し大型化し中央集権化の進んでいく地域社会においては、公民館その他の集会所が、役場などのある中央部に集中している。

そして、小集落単位の辻堂の集会所は、影をひそめつつある。地位も肩書も問題にしないで気楽に集まれる所、温かい人間の心の交流の場が急速に失われていく。住民の「堂」に対する関心は薄れていく一方である。

深の「堂さん」も忘れ去られていく運命にあるのだろうか。



学校の移り変わり(一)

明治新政府が「必ず邑(むら)に不学の戸なく、家に不学の人無からしめん事を期す」と学制を公布し、それに基づく近代的教育制度を創始したのは、明治五年(一八七二)であった。

それをうけて、深村では翌年三月、上組金剛寺に番屋舎を設置し、子ども達の教育に当たった。初めは、寺子屋的な学校だったと想像できる。

この年の就学率は、全国で男子三九・九%の、女子五・一%の記録が残っている。

明治九年(一八七六)三月、現在の上成瀬林美樹雄氏敷地内に校舎を新築移転した。深で二番目の学校で約十年間ここで勉強した。

今、深小学校玄関にあるのは、現在残っている校名札で成末豊氏が寄贈されたもの。

廣島縣御調郡第四小學校 公立

深小學校

下組の子どもは、中世の山陽道の稚子峠を越えて通学していたが、これが案外近道だった。

明治十九年(一八八六)の学校令が出るまでの修業年数は、三年から四年で、それも義務的なものではなかった。

児童数は男子が多く「女子には学問はいらぬ」と言つて、通学させてもらえない子もいた。又、家庭の都合でやめることもしばしばあった。

次いで、明治二十年(一八八七)三月、現深町民会館の東側に校舎を新築移転した。これが三番目の学校で、ここに約二十年余いた。

明治二十一年(一八八八)からの記録は残っているが、それによると、明治三十一年(一八九八)には、児童数九十九人、学級数一、教員一名とある。一人の先生が百人前後の児童の指導をしていたことになるが、どんな授業風景だったのだろうか。

以前、ある古老から「読み書きソロバンがほとんど毎日の勉強で、先生の言われることをよくきき、みんな静かにやっていました。又、大きい子が小さい子の面倒をよく見ていました」と聞いたことがある。

今、深刻な社会問題になっている「いじめ」や「不登校」「学級崩壊」などはなかったらしい。

昔、四年修了のお年寄りが、むずかしい新聞の字を読んだり、上手にソロバンを入れるのを見て驚いたことがある。いつまでかは確かではないが、月謝だったのでよけい真剣に勉強したのかも知れない。

このようにして時代が流れ、義務教育が六年にきまつた明治四十年(一九〇七)を迎えるのである。その頃全国の児童の就学率は男女とも九七%以上になっていて、これは世界のどの国にも例がないほどの高率であった。

学校の移り変わり(二)

明治四十二年(一九〇九)現在地に校舎を新築した。

四番目の学校で、児童数一五〇人の三学級。教員は校長と訓導二人で、校長は学級担任兼務だった。一・二年、三・四年、五・六年の複式授業。

教科は、修身、国語、算術、日本歴史、地理、理科、図画、工作、体操、唱歌だった。

大正十一年(一九二二)高等科二年が設置され、尋常小学校六年、尋常高等小学校二年の義務教育で、

児童数一六九名、教員四名だった。このような状態は、以後昭和二十二年(一九四七)まで続くのである。

昭和十六年(一九四一)三月、国民学校令が公布され、校名は深田村立深国民学校と改称された。初等科六年の義務と高等科二年。

同年十二月八日、太平洋戦争へ突入で、児童も国民の一人としてこれに協力する戦時体制になった。年に二回の農繁期休みがあり、小さな子どもも一家の大切な働き手だった。出征兵士の家へは学校から出向き、田植えや稲刈りを手伝った。

昭和十九年(一九四四)九月、大阪市海老江東国民学校より六年生三十七人が集団疎開で深の学校へ来た。

終戦前の半歳だったが、児童は都会では味わえないワイルドな生活を体験した。尚、昭和五十八年(一九八三)十月には、約四十年ぶりにその時のその時の児童の何名かが、学校訪問をしている。

そして、昭和二十年(一九四五)の終戦。

昭和二十二年(一九四七)学校教育法による新学制(六・三・三制)で、校名も深田村立深小学校に改称。戦後の新しい教育が始まる。高等科は新制中学校へ。

昭和二十五年(一九五〇)初めて全校単式学級になり、専任校長が就任した。複式が始まって七十七年目。児童数一四二名、六学級七名の教員数だった。

昭和二十五年(一九五〇)七月、分村合併問題が尾を引き、下組の児童は御調郡美ノ郷村木頃小学校へ集団転校した。

昭和二十六年(一九五一)四月一日、三原市へ合併し、校名も三原市立深小学校になり現在に至っている。前年木頃小学校へ転校していた児童は、この年十月復校した。中学生は三原二中へ。

昭和二十七年(一九五二)三原市立深幼稚園を開設。

昭和二十九年(一九五四)二月、木造二階建校舎新築。町内から沢山の庭木をもらい植えた。

昭和三十八年(一九六三)十二月、創立九十周年記念式典を行う。昭和五十三年(一九七八)屋内運動場を新築。

昭和五十六年(一九八一)五月、現在の校舎を新築。

昭和五十七年(一九八二)プール新設。

三原市へ合併以来五十年が経過した。社会の変化とともに学校も変化していく。

この間、変則複式を昭和三十七年(一九六二)より四年間、昭和四十八年(一九七三)より五年間、平成四年(一九九二)より五年間体験した。

子どもの遊び今昔(一)

もういくつ寝るとお正月  
お正月には風揚げ  
独楽を廻して遊びましょう  
早くこいこいお正月

の歌にある様に、昔の遊びは風揚げ独楽廻しから始まっていた。遊びの種類も豊富で、昔の子どもは時間を忘れて思いきり遊んだものである。今でも、遊び方まで鮮明に覚えておられる方も多いと思う。

昔遊んだものをあげると。たこあげ。チャンバラ。くぎたち。輪回し。竹馬。竹トンボ。魚つり。魚とり。水切り。木登り。小鳥とり。川・池での水泳。まりつき。ゴムとび。ケンダマ。ダルマ落とし。おじやみ(お手玉)。折り紙。飛行機。じゃんけん遊び。カンけり(石けり)。馬とび。かくれんぼ。鬼ごっこ。にらめっこ。ままご。板すべり。指相撲(腕相撲)。あやとり。おはじき。羽根つき。お手合わせ(せつせつせなど)。陣とり。カゴメカゴメ。縄とび。ハンカチ落とし。おしくらまんじゅう。カルタ。トランプ。すごろく。花札。松葉切り。虫とり。水鉄砲。杉の実鉄砲(紙玉鉄砲)。ミカンつり。将棋。ビー玉。メンコ(パッチン)。コマ回し、などまだまだあると思う。



いつもの時間にいつもの場所に行く、大勢の子どもが集まってくる。ガキ大将もいる。遊びは今とちがいが異年齢集団の遊びだった。その特徴は、外遊びが圧倒的に多いこと。親からも「外で遊びなさい」と言われるし、みんな外で遊ぶものと思っていた。

暑い夏の日汗を拭き拭き、又冬の寒い日に青つ鼻をすすりながら、霜焼けした耳、あか切れた手足で遊び廻った。

そして、日暮れ近くまで遊び、服を汚し、叱られることも度々あった。

ところで、昔の遊びは昭和四十年代末であらかたその姿を消したといわれる。

勉強、部活、おけいこ、塾などいろいろの要因があると思われるが、今、外で遊ぶ子どもをほとんど見ない。あれほどよく遊んでいたのにどうしたのだろうか。

今の子どもたちは、どんな遊びをしているのだろうか。